

第3回新型コロナウイルス感染の広がりに関する景気動向調査の分析結果

2020/06/23

1. 調査の概要（景気動向調査への協力依頼について（お願い））

霊枢（れいきゅう）事業者を除いてFAXで調査可能な会員事業所550事業所に、

- ① 【設問4】R2年4, 5月の売り上げ（対前年同期比）
- ② 【設問5】R2年6月以降（6月～8月）の売り上げ見込み

について、アンケート調査を実施（6月5日～19日）

2. 全体基調（資料1）

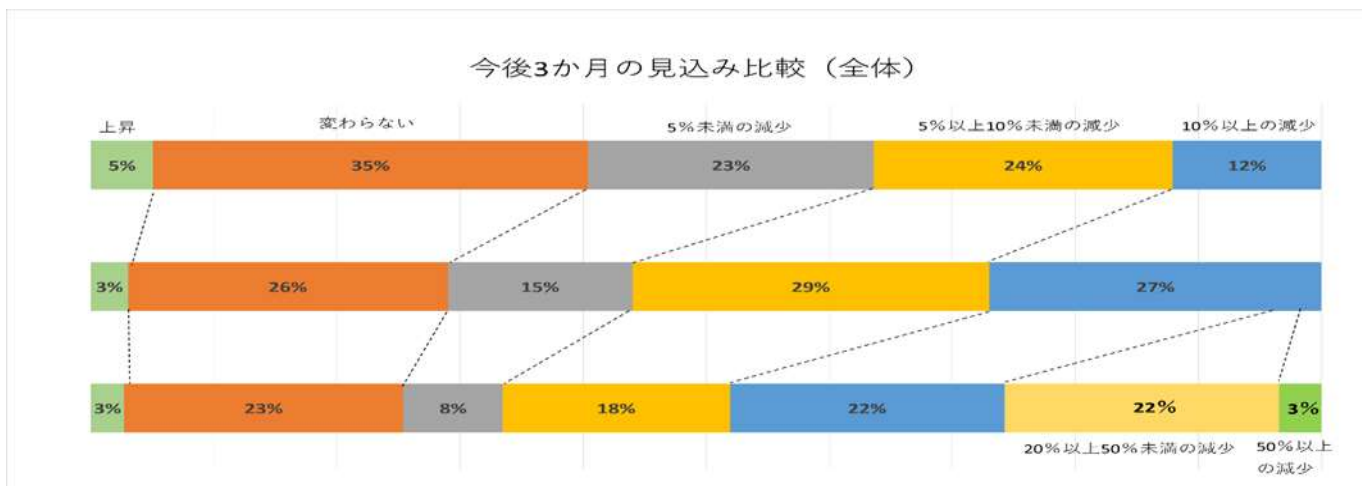
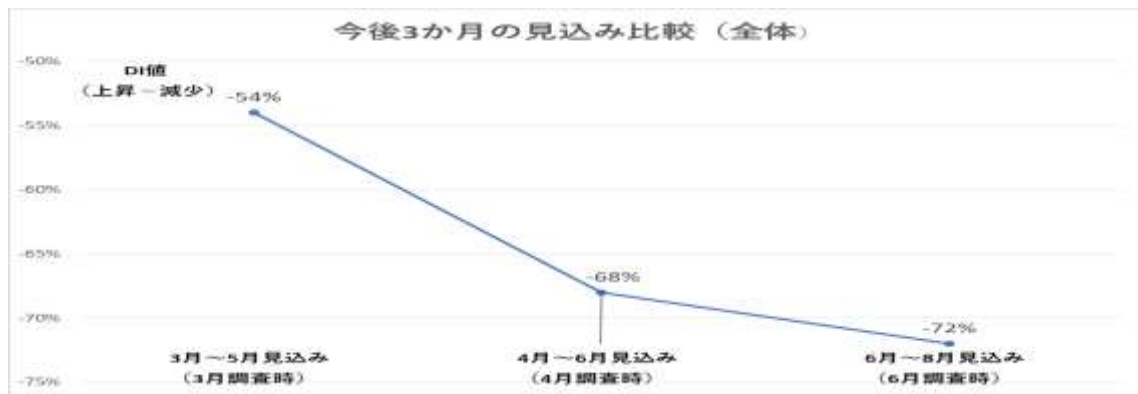
550事業所中、267事業所から回答があった。（回収率48.5%）

【設問4】の4月の売り上げでは、「上昇-減少」（以下「DI」という。）が▲57ポイント。

5月の売り上げでは、DIが▲71ポイント

前回調査（4月から6月見込み（DIは▲68ポイント））に比べ4月の売り上げは11ポイント高く、見込みほど影響は伝搬していない状況。一方、5月の売り上げは見込みに比べ、▲3ポイントとなっており、概ね見込み通りの影響が出ている。

【設問5】の6月以降の先行きについては、DIが▲72ポイントで、前回の今後の見込みと比べ、3ポイント悪化しており、コロナウイルスの影響は長引くと予想していると考えられる。



3. 輸送品目別による前回調査との比較（資料2：4月、5月上）

回答数が10事業所以上ある輸送品目別について「前回調査の4～6月見込み」と「今回調査の4月、5月上」を比較した結果は、以下のとおり（前回調査：今回調査）

- ① 木材を主に輸送する事業所
4月上 — DIは4ポイント良かった。(▲59：▲55)
5月上 — DIは14ポイント悪かった。(▲59：▲73)
- ② ダンプを主に利用する事業所
4月上 — DIは38ポイント良かった。(▲74：▲36)
5月上 — DIは7ポイント良かった。(▲74：▲67)
- ③ 工業品を主に輸送する事業所
4月上 — DIは25ポイント良かった。(▲91：▲66)
5月上 — DIは同じであった。(▲91：▲91)
- ④ 食料品を主に輸送する事業所
4月上 — DIは8ポイント良かった。(▲60：▲52)
5月上 — DIは9ポイント悪かった。(▲60：▲69)
- ⑤ 雑貨・宅配の事業所
4月上 — DIは13ポイント良かった。(▲62：▲49)
5月上 — DIは8ポイント悪かった。(▲62：▲70)
- ⑥ タンクローリーなどの事業所
4月上 — DIは4ポイント良かった。(▲64：▲60)
5月上 — DIは2ポイント悪かった。(▲64：▲66)
- ⑦ 鉄鋼・重量物を主に輸送する事業所
4月上 — DIは25ポイント良かった。(▲90：▲65)
5月上 — DIは7ポイント良かった。(▲90：▲83)
- ⑧ 資料2の「減少率」の割合をみると、4月実績は、工業品と鉄鋼・重量がともに78%と特に悪い。5月実績では、4月の両業種に加えて、木材、食料品、雑貨・宅配の悪化が顕在化した。
これは、工業品、鉄鋼・重量物は3月から引き続き、設備投資の抑制や自動車産業の生産量の激減、世界的な鉄鋼情勢の変化が原因であると考えられる。
木材については、原木の海外輸出と国内の新規住宅の建設がストップしていることが要因である。また、食料品については、全国的なイベントの中止や外食産業及び宿泊施設等が営業自粛したことが要因と考えられる。
- ⑨ 前回調査時と比較すると、4月の売り上げでは、多くの業種で影響が出始めたものの、見込みほどの影響はなかった。一方、5月は全業種でほぼ見込みどおりの大きな影響を受けた。

4. 輸送品目別による見通し（資料2：6月以降の見通しから）

回答数が10事業所以上ある輸送品目別についての分析結果は、以下のとおり

- ① 鉄鋼・重量物を主に輸送する事業所 — DIは▲96ポイントと大変厳しい結果
- ② 工業品を主に輸送する事業所 — DIは▲89ポイントと大変厳しい結果
- ③ 木材を主に輸送する事業所 — DIは▲82ポイントと大変厳しい結果
- ④ 雑貨・宅配の事業所 — DIは▲76ポイント
- ⑤ タンクローリーなどの事業所 — DIは▲72ポイント
- ⑥ 食料品を主に輸送する事業所 — DIは▲66ポイント

- ⑦ ダンプを主に使用する事業所 — D Iは▲59ポイント
- ⑧ 4月、5月の売上と同様に、工業品と鉄鋼重量が他品目に比べ厳しい冷え込みとなっている。
- ⑨ 前回調査と比較すると、木材（前回：59）で、特に大幅な悪化が見られた。

5. 地域別による前回調査との比較（資料3：4月、5月売上）

6地域における「前回調査の4～6月見込み」と「今回調査の4月、5月売上」を比較した結果は、以下のとおり（前回調査：今回調査）

① 大分西地域	4月売上	— D Iは19ポイント良かった。	(▲72：▲53)
	5月売上	— D Iは 7ポイント良かった。	(▲72：▲65)
② 大分東地域	4月売上	— D Iは 3ポイント悪かった。	(▲57：▲60)
	5月売上	— D Iは15ポイント悪かった。	(▲57：▲72)
③ 別 杵地域	4月売上	— D Iは25ポイント悪かった。	(▲70：▲95)
	5月売上	— D Iは25ポイント悪かった。	(▲70：▲95)
④ 県 北地域	4月売上	— D Iは19ポイント良かった。	(▲80：▲61)
	5月売上	— D Iは 5ポイント良かった。	(▲80：▲75)
⑤ 西 部地域	4月売上	— D Iは35ポイント悪かった。	(▲32：▲67)
	5月売上	— D Iは50ポイント悪かった。	(▲32：▲82)
⑥ 県 南地域	4月売上	— D Iは31ポイント良かった。	(▲61：▲30)
	5月売上	— D Iは 5ポイント良かった。	(▲61：▲56)

⑦ 前回調査と比較すると、別杵地域と西部地域が突出して悪くなっている。これは、別杵地域は、観光業の冷え込み、西部地域は木材の需要の冷え込みが原因と思われる。

一方、前回調査時に最も悪かった県北地域は、依然としてD Iは低いものの、見込みほどの落ち込みはなかった。

⑧ 県南地域は、4月のD Iは30ポイント、5月のD Iは56ポイントと両月ともに、他地域に比べコロナウイルスの影響は大きく伝搬していないと思われる。

6. 地域別による見通し（資料3：6月以降の見通しから）

6地域における大きな特徴は、以下のとおり

① 別杵地域のD Iは▲100ポイントと全事業者が悪くなると考えている。これは、観光業が盛んな別杵地域では、国内の自粛が解除された後も、海外からの渡航者が制限されているため影響が長引くと見ていると思われる。

② 別杵地域に続いて悪いのが、大分西地区の▲81ポイント、次に大分東地域の▲76ポイント、西部地域の▲73ポイントとなっている。大分西地域と大分東地域は、工業品の減少と、自粛解除による宅配物の需要の減少が要因だと考えられる。西部地域は、木材の重要な減少が要因と考えられる。

③ 県北地域は前回調査時では、各地域の中で最も悪かったが、今回は▲58と回復している。これは、ダイハツ九州大分中津工場の通常稼働の目途が立ったことが要因だと考えられる。

7. 輸送品目別分類における時期的D Iの変化に対する考察（資料2）

回答数が10事業所以上ある輸送品目別の4月、5月と6月以降の変化については、以下のとおり

- ① 4月の対前年比の売り上げに関するD Iは、▲36ポイント～▲68ポイント
- ② 5月の対前年比の売り上げに関するD Iは、▲66ポイント～▲91ポイントと大幅に悪い。
- ③ 6以降の先行きでは、▲59ポイント～▲96ポイントと大幅に悪化すると見ている。
- ④ 5月と6月以降を分野別に比較すると、鉄鋼重量の変化率が13ポイント、続いて木材が9ポイント悪化すると見ている。
また、ダンプは8ポイント、食料品は3ポイント、工業品は2ポイント回復すると見ている
- ⑤ 工業品は2ポイント回復しているものの、D Iは▲89ポイントと、影響の度合いが極めて高いことから、冷え込みは長期化するものと予想している。

8. 地域別における時期的D Iの変化に対する考察（資料3）

各地域において、4月、5月と6月以降の変化については、以下のとおり

- ① 4月は各地域で▲30ポイント～▲95ポイントと幅が広い。
それぞれの地域の特徴により、大きなバラつきが出ている。
- ② 5月は各地域で▲56ポイント～▲95ポイントと大幅に悪い。
- ③ 6月以降の先行きでは、▲58ポイント～▲100ポイントと大幅に悪化すると見ている。
- ④ 別杵地域のD Iは、4月、5月が▲95ポイント、6月以降については、▲100ポイントと悪化すると見ている。観光業の低迷が、大きく関係産業に影響を及ぼしているものと思われる。
- ⑤ 県南地域は、4月、5月では、他地域に比べコロナウイルスの影響度は低い。
- ⑥ 県北地域は、4月、5月のD Iは悪いが、6月以降はダイハツ九州大分中津工場の通常稼働再開が今後の先行きを明るくしているものと思われる。

9. 調査結果を受けて

4月、5月は各輸送品目・各地域でコロナウイルスの影響が出ている。特に、緊急事態宣言が出た5月の売上げの減少は、全体で7割以上の事業所で売上げが減少しており、そのうち3割の事業所が20%以上の減少となっている。

前回調査と比べ、特徴的な数値が出ているのが別杵地域と県北地域である。自動車産業が盛んな県北地域は、自動車産業の製造が止まったことにより、前回調査時から影響が大きく出ており、今回調査の4月、5月のD Iも悪くなっている。しかしながら、6月以降のD Iを見ると、若干持ち直しの兆しがみえ、これは、ダイハツ九州大分中津工場の通常稼働再開の目途が立ったことによる期待が左右したものと考えられる。

続いて、別杵地域は大変厳しい結果が伺われた。4月、5月の実績では、95%、6月以降の見通しでは、100%の事業所で売上げが減少となった。観光業の盛んな別杵地域の特徴的な数値であり、国内旅行及び、外国人観光客の大幅な減少が影響しており、なおかつ、影響が長期化すると見ていると思われる。

輸送品目別では前回調査時から、工業品、鉄鋼・重量のD Iは悪いままである。

工業品は、国内で自動車産業の製造再開の目途が立ったものの、海外からの部品が調達できないことから、外需に頼っている製品の製造が減少しているため、影響の長期化を推測していると思われる。

さらに、コロナ禍における社会生活様式の大きな変化による輸送業界への影響は今後も続くと思われる。

また、売り上げの減少理由については、コロナウイルス感染症の影響とは別に、人手不足及び、働き方改革等によるものとの回答もあった。

そこで、本協会では、会員事業者ときめ細かい情報交換を行い、

- ①経営状況の把握
- ②経営相談への対応
- ③協会からの支援
- ④人材確保に向けた取り組み
- ⑤国や関係機関の支援策等

を効果的かつタイムリーに実施していくものとする。